

## 平成 30 年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 8	公益目的事業 17
主査名	谷口綾子 筑波大学大学院システム情報工学研究科リスク工学専攻准教授	
研究テーマ	新しい道路交通システム・施策導入時の社会的受容性*	
<p>自動運転システムの社会的実装が現実味を帯びてきた今日、技術開発や法制度の整備のみならず、人々の社会的受容性が課題とされている。人々が自動運転システムや Shared Space 等の新しい道路交通システムや空間整備をどのように受け入れるかという社会的受容に関しては、合意形成学など人文・社会科学的な観点から検討し、それらを総体的に捉えることが重要である。</p> <p>このような新しい道路交通システムを出来るだけ円滑に社会にソフトランディングさせるためには、そのシステムの有効性や起こり得るリスクを工学的に捉えるとともに、その社会的受容の経緯を、鉄道や路面電車、自動車といった過去に新規導入された既存交通モードを例に、公共受容や法律を始めとする社会制度の変容の視点から質的に把握することも必要である。</p> <p>研究代表者らは、2017 年度実験中である国土交通省道路局の道の駅自動走行実証実験自動運転システムの社会的受容性アンケート調査を全面的に支援・監修しているほか、名古屋大学 COI、愛知県自動運転実証実験、神戸市等における自動走行バスシステム、超小型モビリティの社会的受容性の計測に携わっているところである。本研究では、これらの研究成果を統合し、「新しい道路システムの社会的受容」に着目し、以下の二つを検討することを目的とする。</p> <p>(1) 自動運転システムや Shared Space、超小型モビリティ等、新しい交通モード、空間デザイン概念の社会的受容に必要な条件・プロセス・現状の社会的受容レベルを質的・量的に検討すること</p> <p>(2) 過去に新規導入された交通モードの社会的受容性について、その歴史的経緯を社会学、民俗学視点で整理すること</p>		